

LPSポローニアの特質

The characteristic of the LPS Paulownia





ここ数年、持続可能な世界を目指すためのSDGsについての認識が広まってきました。特に地球温暖化の問題は、菅元首相による2020年の「2050年カーボンニュートラル宣言」を受け、日本でもさまざまな取り組みが進められています。

既に世界中には大気中にCO₂をこれ以上出さない手法は多くあります。ですが、大気中に出されてしまったCO₂を吸収するという手法はほとんどありません。そこで、私達は植物のCO₂吸収の機能に着目し、SDGsの達成に貢献します。



LPSポローニアとは



 CO₂の吸収を最大の目的としたポローニア樹種の中のブランド名です。

日本で言う桐の木を交配することで誕生し、育成ノウハウや環境条件により早期に成木化するポローニア種で、LIPNS PITTO SHI社が名付けた名称です。

一般の桐の木は成木になるのに15～25年かかるのに対し、LPSポローニアは、4～6年で成木になります。





LPSポロニアの特徴



1 萌芽再生力が強い

伐採した株から新たに再発芽し、4～6年で再び成木になります。基本的に根が元気な限り、何度でも発芽します。

2 二酸化炭素吸収能力に期待

成長期におけるCO₂の吸収量が大変大きく、日本の杉の木と比べ10倍もしくはそれ以上と言われている、長期（60年）でも3.5倍という研究結果が、日本の大学機関より出ています。

3 省エネ建材として利用可能

熱伝導率が低く、保湿性に優れているため、冷暖房の効果が持続し、省エネ効果があります。



成木化後の伐採に伴う課題解決

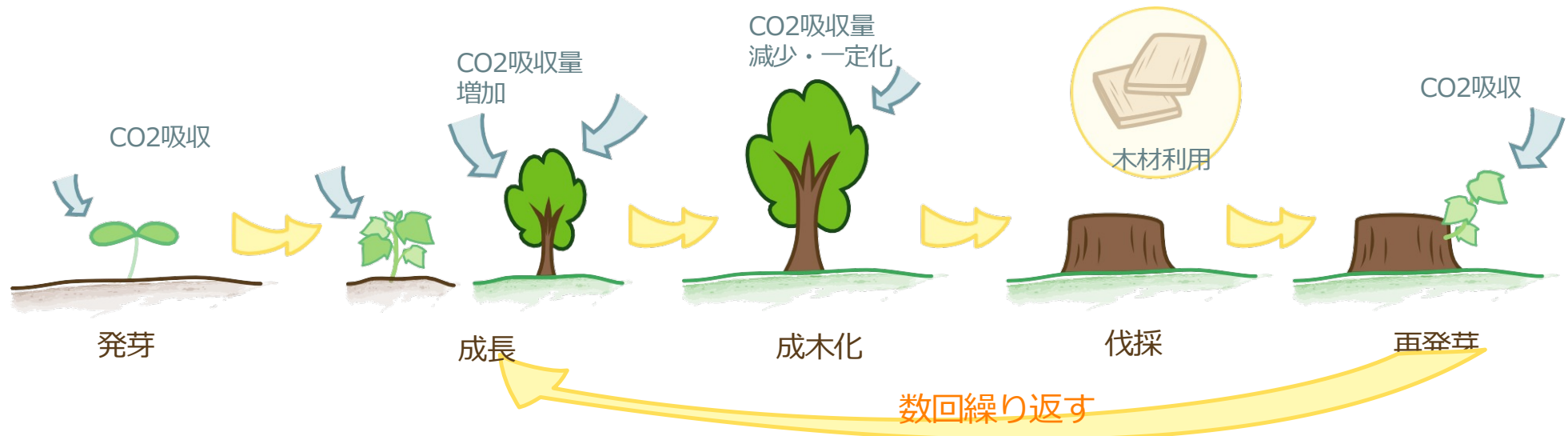


早いサイクルでの伐採、再発芽

樹木は、植栽後の二酸化炭素の吸収量は増加し、一定期間後に最大となりますが、林齢を重ねると減少し、やがて一定となります。これを過ぎると森林による二酸化炭素の吸収量は低下するため、伐採・再植林を一定の周期で繰り返した方がよいこととなります。

LPSポローニアは伐採後、株から再発芽し、成木化後の成長期プロセスを繰り返すので再植林の手間やコストが掛かりません。

さらに早いサイクルで伐採→再発芽するので二酸化炭素の吸収力が比較的落ちません。





木材としての特性



1 柔らかい

柔軟性、弾力性に富み、小さな傷であれば回復させることが可能です。床材などにすれば転んでもけがをしにくいので、子供や高齢者に優しい素材です。

2 軽い

最も軽いLPSポロニアは、比重が0.28 ~0.3。LPSポロニアで創られた椅子やテーブルも軽くて移動しやすく、掃除のときの移動や家具の配置換えが楽です。

3 湿気に強い

熱伝導率が低く、水分も吸収し、乾燥時は水分を放出します。従って、結露などのない清潔な状態を維持します。湿度変化に強く、カビが発生しづらいので衣類やお米の収納に最適です。

4 熱伝導率が低い

LPSポロニアの細胞内部には空気の層があり、熱が伝わりにくくなっていて、断熱効果・保温効果に優れています。

5 乾燥が速い

生木は水分の含有量が多く、材料としての桐材を乾燥させる際のプロセスにかかる費用が節約できます。



OTCPink (SHCC)

**株式会社LIONS PITTO SHIは
米国ピンクシート市場公開会社である
LIONS PITTO SHI Corp.グループの一員として
ブロックチェーン技術を活用し、
信頼できる社会作りに貢献します。**